PRIME

休多留

◆建設的な生き方へのお手伝い（ *Just do it !* ）◆
（カウンセリングのことは当社までお問合せ下さい）
【今月の一冊】 怒らない技術
嶋津良智 著　フォレスト出版
ホームページ URL http://www15.ocn.ne.jp/~prime21/

発行日　２０１１年3月1日　Vol.101
発行元　有限会社プライム・コーポレーション
代表取締役　渡　邉　敏　徳
〒401-0015 山梨県大月市大月町花咲 147 番地
TEL 0554-22-2810 FAX 0554-22-2859

「はい、喜んで」！

第二次世界大戦の終わり、ソビエト連邦の軍が中国の北部を侵攻し、それによって極寒のシベリアの地に部下を率いて抑留されつつも、最後には、地獄の強制労働を生き延びた人がいました。志水陽光さんという方です。

その生活とは、一日わずかのコウリャン粥のみで、凍てつく土をツルハシで来る日も来る日も採掘作業を行なう日々が続いた。

そんな中、仲間が一人、また一人と死んでいき、ひと冬が過ぎる頃には部下の数が半分に減っていた。そんなときに、同じく痩せてはいるが、眼を輝かせ、とても死にそうには見えない一人の若い兵隊が他の部隊にいました。

「君はどうしていつも元気なんだ？」と尋ねてみると、「私には、心に歌がある」と言ったそうです。志水はすぐに部下たちを集め「毎日、歌を歌いながら作業するように！」と厳命した。「歌声は、口をついて耳に伝わり、心に響いて元気を養う」。歌い始めてから数ヶ月過ぎる頃には、全員があの若い兵隊と同じような眼の輝きを取り戻していた。

そして、終戦から六年が経って志水の率いる部隊は、歌を歌い始めてから一人の落伍者もなく無事に日本へ帰還しました。

極寒の地では誰もが体力の温存を考えていたと思います。そういったマイナス的な思考の考え方の人たちが病に倒れ、「はい、喜んで」とすすんで採掘作業を行っていった人たちが生き延びる結果となりました。

人生は、プラス的な思考に考えればプラスの方向へいき、マイナス的な思考に考えればマイナスの方向へいくと思うのです。良くも悪くも自分の思い描いた通りになっていくことになります。「自分は運が強い」と信念すれば、強運が呼び込まれ、物事は思いの方向に成就していき、死すべき境涯さえも強い思いによって乗り越えられていけると思います。

私たちは、自分の信念を「言葉」に変え、そして強運として自分自身に積極的に取り込んでいくことが大切なのだと感じます。人生は、良いときもあれば、悪いときもあります。そして悪いときほど歌を歌い、自分自身に勇気づけの言葉で心を響かせていきたいと思います。

心の響きが人生を輝かせることになると信じて。

平成の「熱き志」

現在の日本が大きく転換した時期と言えば「明治維新」となります。

近代国家への扉をこじ開けた先人たちが今の日本を見てどう感じるのだろうか？宿敵同士の薩摩藩と長州藩との間で同盟が成立したのは、今から一世紀半前の１８６６年の３月７日でした。

幕末の時代と同じく、閉塞感を感じている人たちが改革をしようともがき苦しみ、新たな活力を生み出そうとしています。そんな志や思いはわかるのだが、希望を感じる形として表れてこないことに不安も大いに感じるところです。

政局に明け暮れていると言われても仕方のない今日の状況では、事態が好転する見込みすらない状態です。政党や派閥を超えてそれぞれが主張する立場の人たちを一つにまとめ、リスクを背負ってたつ坂本龍馬のような人物は残念なことに現れてこない。

平成の時代に「熱き志」をもった人たちが、新時代の扉を開くことができるように日々の生活の中で、私たち一人ひとりができることをやっていく必要があります。

私たちの人生は、一人一枚の片道切符しか持っていません。悔いのないようにしたいものです。

☆　☆　☆　☆　☆　☆　☆

指導者は才能無きことを憂う必要はないが、

熱意無きことを恐れなくてはならない

（松下幸之助）